

避難生活の中で感じていること、困っていること。除染や賠償、村の事業などについて聞いてみたいこと。ジャンルは問いません。皆さんの声をお聞かせください。



杉下 初男さん(長泥)

伊達方部自治会が中心となり37人で栃木県鹿沼市を訪れ、一番困った時にお世話になった皆さんに、村民としてお礼を伝えることができました。

栃木県鹿沼市からいただいた大きな支援は、決して忘れることのできないものです。大震災直後の平成23年3月19日から村民の緊急避難を受け入れていただき、その後も、職員派遣、招待事業などを長期にわたり行っていただきました。さらには村のイベントへの協力、村への義援金を募るチャリティイベントの開催など、心のこもった細やかな支援をいただけてきました。

今回は、緊急避難でお世話になった方を含む皆さんで、村民として感謝を伝えるために鹿沼市役所を訪れ、迎えていただいた鹿沼市の皆さんと、心の通う交流があったと聞きました(関連記事P24)。

私たちは、たくさんの支援をいただいて今があることを、心に留めて進んでいかなければなりません。また、杉下さんたちのように、感謝の気持ちをしっかりと伝えることも大事にしたいと思います。



菅野 ひとみさん(宮内)

10年前に書いた手紙が届くのが本当に楽しみでした。次の10年後へ、また家族で手紙を書いてみたいと思います。

立村50周年を記念して実施された「10年後への手紙」1,840通の郵送が、去る9月下旬から始まり、家族や友人、あるいは10年前の自分から届いた手紙が、多くの方の心を動かしています。

村ではさらに、村政施行60周年に合わせて「続・10年後への手紙」の募集を開始しました。合わせて、オリジナルレターセットの無料配布や、記念切手(80円切手10枚で1シート/820円)の販売も行っています。(菅野さんにはすでに、ご家族分のレターセットをお渡ししましたね!)

募集期間は来年1月31日まで。今の気持ちを10年後の未来へ届けてみませんか。応募方法の詳細はお知らせ版でご確認ください。お問い合わせは総務課企画係 ☎ 0244-42-1613 までお願いします。

いいたて 歳時記 その19

「かて飯」や「だんご」の話

「かて飯」とは、米に雑穀や野菜などを混ぜたご飯のこと。たびたび冷害や飢饉に悩まされてきた村では、不足しがちな米を、次の収穫まで大切に食べつなぐため、白米に「かて」を混ぜて食べていました。干した菜っ葉をゆでて刻んで、麦と一緒に入れて混ぜ込むのが一般的でした。「かて」には他にも、ダイコン・サトイモ・カボチャ・ジャガイモなどがよく使われました。

家族の多い家では、朝に炊いたご飯で昼食もまかなえず、残りの具合を見ながら食べるのを加減して、働き手に食べさせる配慮を忘れませんでした。それでも足りなくなると時には、「だんご」や「そばねり」をこしらえました。だんごは小麦粉を練って作ります。そばねりは、そば粉を熱湯で練り、塩味をつけて食べました。みそ汁などにだんごを入れた「だんご汁」は、腹に力がつきました。

粉にして用いたものには、そばと小麦の他にもくず米などがあり、いずれも貴重な食料でした。米の粉は、粉もちやだんごや凍みもちにして食べました。醤油や豆粉に砂糖を混ぜ、ゆでただんごにつけて、「こじはん(おやつ)」を食べるようになるのは、少しゆとりができた時代になってからのことです。



かまどが中心の台所「カマヤ」

おくやみ

氏名	年齢	行政区
佐藤 富子	95	前田
高橋 絹子	78	草野
大内 愛子	82	佐須
大内 貞夫	80	関沢
高野 トシ	90	前田・八和木
赤石澤 喜一郎	81	大久保・外内
高野 初男	63	前田・八和木

ご冥福をお祈り申し上げます

(9月21日から10月20日までに届け出のあったものを掲載) ※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
高橋 由來ちゃん	秀平・美紀	長泥
木幡 優蘭ちゃん	昌彦・瑞恵	深谷
赤石澤 芭月ちゃん	勉・江布	深谷
高野 滯ちゃん	智嗣・智子	前田・八和木
渡邊 碧ちゃん	宏和・明美	小宮

すくすくと元気に育ってね

ひとのうごき (平成28年9月30日現在)

項目	今月(前月比)	9月1日~30日までの人口動態
人口	3046人 (-6)	転入 4人
男	3112人 (-10)	転出 22人
女	6158人 (-16)	出生 7人
世帯数	1837戸 (-4)	死亡 5人

(住民基本台帳人口)

編集後記

12年ぶりの村長選挙が行われた10月。多くの村民がこれからの村を考え、貴重な一票を投じました。そこには「初めての選挙なんです」「職場の人に声をかけてもらって来ましたが」と、少し緊張気味の若い有権者の姿も見られました。ニュースなどで「若者の政治離れ」の声をよく聞きますが、村の若者は違いますよ。しっかり自分で考えて、村の将来を考えて投票してました▼選挙に来て、知っている顔に思わぬ再会が。「久しぶりだね」「元気だったかい」と投票所の外でちょっとしたお茶のみ会がスタートなんて場面も。皆で集まって、村を話し合う。まさに「政まつりごと」ですね。さあ、皆で村づくりをはじめましょう。(木幡)